

## 会議録

会議の名称	令和4年度 第1回東秩父村小・中学校あり方検討委員会
開催日時	令和4年11月21日（月）14:00～15:50
開催場所	東秩父村役場2階 大会議室
出席者	出席者16名（委員11名・事務局5名） 〔委員〕野口博一委員、高橋守委員、古屋貴代委員、渡邊直之委員、大野孝行委員、原田勝成委員、高野次雄委員、奈良幸子委員、田端隆二委員、志田隆之委員、高田長子委員、 〔事務局〕大久根教育長、足立事務局長、瀬上指導員、疋田指導員、笠間
会議記録	発言記録 ・ 要点記録
議事内容	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会 足立事務局長</li><li>2. 委嘱状の交付</li><li>3. 教育長あいさつ</li><li>4. 委員・事務局自己紹介</li><li>5. 委員長の互選・あいさつ 委員より「事務局に一任します」との意見があり、事務局案として委員長に高橋守委員を選出した。 →全会一致で賛成</li><li>6. 副委員長の指名・あいさつ 高橋守委員長より、野口博一委員を副委員長に指名した。</li><li>7. 諮問事項について【資料1】 村長より、令和4年5月24日、小・中学校児童生徒にとって望ましい教育環境を整備し、充実した学校教育の実現のため、小・中学校あり方検討委員会に諮問があった。</li><li>8. 協議事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 委員会の目的について【資料2】 事務局より説明 一つ目の案としては、施設を統合して一体型の校舎で小中一貫教育を行う、二つ目の案としては、今までの校舎を使用し、別々の施設で小中一貫教育を行う、という案が考えられる。現在でも小・中学校合同で教員の交流や行事の交流を行っているが、校舎が一体型なら移動の時間等が有効に使えるというメリットもある。校舎一体型、分離型、小中一貫校とするのか今のままでいくのかなど、ある程度の方向性がでたら、PTAや部活動について協議を行うということを事務局としては想定している。</li><li>(2) 委員会の目的について（法律の規定）【資料3】 事務局より説明</li><li>(3) 東秩父村の教育指針について【資料4・5】 事務局より説明 第6次総合振興計画は村の最上位の計画であり、基本構想と基本計画で構成されている。教育・文化分野の方向性として、学校教育においては「社会性を育む、人づくりの村」を目指し、「教育環境の整備」と「生きる力を伸ばす教育の推進」を前期基本計画に掲げている。その中の「教育環境の整備」の中に「②小・中学校適正配置の</li></ol></li></ol>

検討を行い、特色ある教育を提供する状態」という目標が、この委員会の設置につながっている。児童生徒の数の推移では、令和8年度には複式学級となり、その後も複式学級は増えていくことが見込まれる。

#### (4) スケジュール及び協議内容（予定）について【資料6】

##### 事務局より説明

今後、村民の方を対象にアンケートの実施を検討している。今後、事務局としての案を示して、委員会で協議を行い実施したいと考えている。全部で7回の委員会を予定し、令和6年度に村長へ答申するというスケジュール案だが、状況に応じて随時開催する予定である。

##### ◆各委員からの意見・感想

- ▶来年度、子どもが1年生になるが、通学班を心配している。人数が少ないので、登下校などの安全が気になっている。
- ▶小中学校の統合には賛成。中学校校舎の老朽化も進んでいる。小・中学校を一緒にするなら保育園も一緒の場所に造り、全部1カ所にするのがいいのではないかと。終了時刻も合わせられれば、保護者は迎えが1回で済み、負担が軽減できるのではないかと。自分も子どもがいるが、少子化で同級生が少なくて心配。定住促進が必要なのではないかと。そこが根本的な問題だと感じる。
- ▶「あり方検討」の規模が大きすぎる、広すぎるのではないかと。広すぎて何を話しているかわからない。「あり方」のとらえ方を統一したほうが協議しやすいのではないかと。役場のほかの委員会等でもこのような話が出るが、それぞれの委員会で方向性をそろえないと協議できないのでは。少子化が進んでいて、自身もPTA役員は2回目で負担も大きい。学校では、少子化で野球もドッジボールもできない状況である。施設のことでも大切だが、中身も大切。現状を知ってもらいたい。現状を把握することが大事なのではないかと。
- ▶校舎の新設がいつできるのか心配である。情報が欲しい。
- ▶保育園の立地条件が悪い。保育園、小学校、中学校が同じ敷地内のほうがいいと思う。昔は大河原小学校、大河原中学校が同じ敷地内にあり、小学生の頃、中学生になったら・・・という目標を持つことができたので、小・中学校一貫校がいいのでは？そうすればふれあい広場も活用することができる。現在、保育園は傾斜がある場所にあるので、新しく建てるなら平地に建てたほうがいい。村をもっとPRして移住者を増やすことが重要だと思う。
- ▶学校の建替え予定はいつか？群馬県のある村では、スクールバスでの登下校や保育料が無料など充実している。スクールガードをやっているが、東の児童のつぶやきでいろいろ話が聞ける。西はバス通学なのになぜ東は徒歩なのか？下校途中の雷などの安全面から考えてもバスがいいのではないかと。
- ▶少人数学級のメリットは、小回りが利く、臨機応変に対応できる、個別指導ができるなどがあるが、デメリットは、人間関係の幅が狭いことが挙げられる。このデメリットは、小中一貫教育で解消できるのではと思う。行事を一緒に行うのは、建物を一体化すれば可能。一体型が困難なら隣接する敷地内はどうか？
- ▶小・中連携は行っている。小学6年生の授業を中学校の教員が参加している。小学校4～6年が中学校で披露したり、逆に小学校で中学生が披露するなど交流を深めている。

	<p>中1ギャップの解消などメリットもある。</p> <p>体育は中学1～3年生で実施したこともある。体育が苦手な生徒は一緒にやるのを嫌がるが、小中一貫教育により解消されるのではないか。数学は3人の教員で9人（中学2年生）の生徒を見ているので、学力を伸ばしやすい。デメリットの解消が必要である。</p> <p>▶村も取り組んでいるが、移住定住が難しい。保護者は小・中一貫校にしてほしい。ほかの自治体の取組例などを参考にして、メリット、デメリットを検証して、デメリットの少ないものを選んでいくのがいいのではないか。</p> <p>9 次回開催について</p> <p>事務局より説明</p> <p>→第2回あり方委員会は令和5年2月から3月を予定している。</p> <p>10 その他</p> <p>▶前もって資料を送付してほしい。</p> <p>→次回より委員会開催前に郵送する。</p> <p>11 閉会 野口博一副委員長</p>
--	---